

古代服装研究 (第3報)

—履物の研究 (2)—

野 津 哲 子

(被服学研究室)

A Study of Ancient Costume (Part 3) —A Study on Footwear (2)—

Tetuko NOTSU

I 緒 言

前報で日本履物史について記述したので、その続として今回は今日における「はきもの」の存在理由を実態調査と関連しながら考察してみたいと思う。

日本独自の履物として、自他ともに誇ることのできるもの、すなわち、日本の風俗とともに進化した履物であるところの「屐」について述べるのが目的である。屐とは、鼻緒をつけて使用する履物の総称であって、その種類は、草履、足駄、下駄に大別される。草履は草鞋から進化して、遠く藤原時代の中世頃からあり、足駄や下駄よりも早く世に出たと伝えられている。日本の古代にすでに、木履があったらしいことは、前報において記述したところである。上古時代には、いばらや、瓦石のある細道が多かったので、庶民はいざしらず、身分の高い者には、当然履物の必要があったと思われると同時に、現代といえども服装上からも、気候の上からも、履の系統は存在して用いられている意義も、一段と明らかになるのである。今日世界各国の人々が使用している、履物といえば、実際外出用としての履物は、要するに履と屐との二種に帰着するのである。屐には、大別すると草履と下駄の二種がある。この歴史を見ると、草履と下駄との二元的な栄枯盛衰を見ることができる。元禄の頃、草履の進化発展は頂点に達したのに対し、下駄は駒下駄の出現から、次第に進歩し、勃興の一路をたどったのである。この傾向は、明治から昭和の年代にいたる間においても同様である。すなわち、日本的履物は、二元的色彩の中に発展したと思われる。その理由は資材的・需要的に見られる現象である。現代でも人口が増加し人間の欲望が進展するにしたがって、履物の日用品的価値も認識され、需要の増加にともない、履物の進歩発達をうながしている。今日でも下駄は、資材が木材なので形態の変

革も自由であり、経済的にも、伸縮性に富むところから松江市・米子市の履物店においては8月・12月に需要が増している。その理由は盆・正月という特別な行事のある時で若い人・老いた人の別なく平均化した売れゆきであるということだった。他の月においては需要が伸びず靴におさされている現状である。現在なお和服には下駄はかかせないもので、特に中年以上の女性になくはならない存在価値をもっている。男性にあっても、散歩等一日の仕事の疲れをいやすために開放感を味わうとして、現在でも昔のままの、角型・丸型が残っている。寸法も男物下駄で長さ23cm・女物下駄で長さ22.5cmと変化していない。草履は表と底の形成関係から、資材・形式に制限され自由な形態美を発揮することができなかったように思われる。したがって雨雪時や、湿地に使用できない欠点もあり、江戸末期まで、大衆の必需品にはならなかったようである。しかし文化の進展にともない、大正年間からは、高度の発展をとげ広く一般に愛用され、現在にいたっている。

昭和になって服装の中で最も立派なものは履物といった感が強かったようである。古来から履物を立派にすることは、服装の最もきれいな行き方だとされている。実際は、着るものより履物をきれいにすることは、現代でもなかなかできないものであるのに、今から20年前の洋服姿の男女の靴が立派で人の目をひいたことは、今日でもよくきく話である。当時立派な靴に汚れたスーツ、背広といった姿は、結局敗戦とインフレが原因と思われる。靴は700円～1,000円出せば上物が買ったのに対し、洋服1着は生地だけでも3,000円～4,000円位もしたので、先ず買いやすい履物からとなったのであろうと考えられる。現代でも履物の価格は、洋服生地と比較して、昭和のはじめとそう変化していないようである。反対に和服姿の婦人は、着物は立派なものを着て、履物は粗末

な雑木下駄が多かったようである。そのちぐはぐも世相の現れであると思われる。そのころ安価な下駄といっても、雑木下駄に人絹布製鼻緒をすげたもので40円～70円、桐柁並物下駄500円、並桐下駄200円、総皮草履500円（現代では女物桐柁並物下駄が1,300円、並桐下駄450円～600円、総皮草履2,000円～3,000円、合成皮で1,000円～1,500円、男物桐柁目下駄で2,000円、並桐下駄で500円～700円、松・杉等は200円～300円位である。）が当時飛ぶように売れたときいているが、その理由は前述したように、インフレによる新興成金の見栄と、長い間高級草履に飢えていた人々によって買求められたものであると思われる。当時の人々の服装は自分の好みや、自分の意志でつくった服装ではなく、物価や物の分量が人の姿をつくったものといえるのではなからうか。新しい靴が氾濫したのも、新しい軍隊靴や軍需用の皮革が大量に払下げられたり闇流しされた結果でもあると思われる。当時の世相は全く物騒な強い者勝ちの世の中であったようである。この時代素人の下駄屋が続出したことも注目すべき世相といえるのではなからうか。現在でも島根県松江市・鳥取県米子市に「はきもの」店として、50数軒存在している。すなわち、今日といえども社会的な利用法としては余り変化していないといえるのではなからうか。社会的な世相に相異はあっても、利用目的は昔も今も同じであることが理解できるのである。また下駄の生産的な立場としての島根県益田市等、一市民として現代社会の興味ある問題といえるのではなからうかと思うのである。島根県松江市・鳥取県米子市にある下駄はほとんど、大阪・広島・四国・愛知産のものが多いことが、今回の調査によってわかったのである。島根県益田市の下駄はおもに九州方面に送られているということであったが、これらの問題についても検討しなければならないと思う。このような意味で、現代社会における「はきもの」の使用状況・所有数・年令・場所よっての使い分け等、また我が国の気候の特徴すなわち夏季の高温高湿について、図をもってながめて、独自の思考と検討をしたのである。

II 調査の概要

1 調査の対象および時期

(i) 第1表の調査対象は山陰におけるすべての、男女を各年代別に100名選び、現代社会における「履物」の実状をアンケートにより調査をした。

調査時期は1966年5月とした。

(ii) 第4表の調査対象は、成長期にある山陰の12才～

18才までの男女の足の成長・足型などを標本抽出により推定しようとした。計測実施に当っては筆者が行なった。調査時期は1966年5月とした。

2 標本抽出

(i) 山陰における中学・高校に通学する生徒のすべてを推定の範囲とし、12才～18才までの、各年令につき性別に母集団を定義する。抽出は各年令の母集団より行なわれ抽出作業の便宜上、中学・高校の別に行なう。本研究によれば足幅の変動係数は6%以内にあり、足幅を精度1%で推定しようとするれば、次の如く36人程度でよい。以下数式を示す。

N 個の単位から構成される母集団の母数 (μ, σ) とし、それから無作為に n 個の標本を抽出して、その平均 \bar{x} を計算したとする。 \bar{x} の分散を $\sigma_{\bar{x}}^2$ とし、目標精度として \bar{x} の変動係数 C を a 以下にとどめるためには

$$C = \frac{\sigma_{\bar{x}}}{\mu} \leq a \quad \text{従って} \quad \frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{\sigma^2}{n} \leq a^2 \mu^2$$

が満足されなければならない。

ここで18才男子総数9432人 ($\div N = 9000$) からの抽出 n は変動係数は大体6%以内にあるので

$$\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{1}{n} \cdot \frac{\sigma^2}{\mu^2} = a^2$$

において $\frac{\sigma}{\mu} = 0.06$, $a = 0.01$, $N-1 \div N$ とすれば

$$\frac{N-n}{N} \cdot \frac{1}{n} \cdot 0.06^2 = 0.01^2$$

いま抽出比を $\frac{n}{N} = r$ とすれば上式は

$$\frac{1-r}{Nr} = \frac{0.01^2}{0.06^2} \quad \text{と変形できる}$$

したがって $r = \frac{1}{1 + \left(\frac{0.01}{0.06}\right)^2 N}$

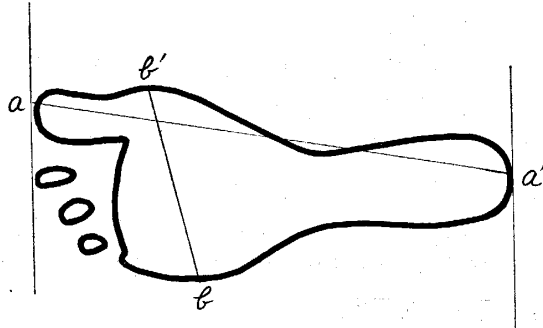
$N = 9000$ を代入して $r \div \frac{1}{141}$

よって $n = 9000 \times \frac{1}{141} = 36$

(四) 計測方法および計測部位

平な台の上に被検者をたたせ、右足の下すなわち第1図のように $a \sim a'$ にメジャーを置いて、足長を計測した。足幅の $b \sim b'$ も足長と同様にして、計測した。

第1図 計測方法



計測部位 $a \sim a'$ 足長
 $b \sim b'$ 足幅

III 現代社会における「履物」の考察

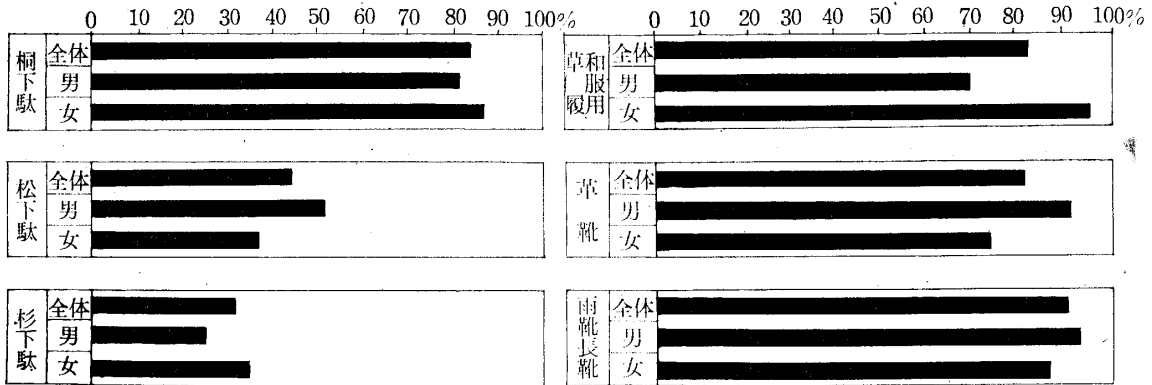
第1表 調査結果の実数表

職業	年代		0~9		10~19		20~29		30~39		40~49		50~59		60~		
	性	別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
業	①農	業	0	0	0	0	5	8	17	28	19	32	33	16	26	12	
	②商	業	0	0	6	13	9	25	25	17	27	16	12	12	14	18	
	③公	務	0	0	10	7	13	15	20	5	18	15	13	5	0	0	
	④会	社	0	0	8	14	25	18	29	24	22	17	13	5	6	0	
	⑤児	童	77	75	76	66	32	29	0	0	0	0	0	0	0	0	
	⑥そ	の	23	25	0	0	16	5	9	26	14	20	30	62	54	70	
所 有 数	(イ)	桐	1足	21	30	26	29	32	11	30	7	18	3	14	0	6	0
			2足	9	7	17	27	25	23	27	53	34	19	25	2	21	0
			3足	6	7	9	12	13	22	31	28	42	24	47	51	55	11
			4足	0	2	10	6	8	18	4	8	3	36	11	23	14	69
			5足以上	0	0	0	0	2	4	2	4	3	16	3	22	4	20
	下	松	1足	36	17	42	14	46	29	32	22	25	12	13	10	15	0
			2足	5	29	21	13	25	17	18	11	21	10	9	6	2	4
			3足	5	4	19	7	11	12	5	9	0	13	0	7	0	2
			4足	2	2	0	0	4	6	6	0	0	5	0	0	0	0
			5足以上	4	2	0	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	駄	杉	1足	12	19	6	21	25	28	15	22	31	36	16	18	7	4
			2足	5	5	7	13	9	13	8	11	23	27	19	6	7	4
			3足	0	4	0	8	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
			4足	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
			5足以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(ロ)	和服用草履	1足	64	91	51	65	34	42	37	28	44	18	21	4	13	0	
		2足	4	5	2	9	9	35	11	46	16	16	45	12	55	6	
		3足	0	0	0	0	0	13	4	15	8	54	24	62	32	31	
		4足	0	0	0	0	0	6	2	9	5	5	2	16	0	19	
		5足以上	0	0	0	0	0	4	2	2	5	7	2	6	0	42	

		年代	0~9		10~19		20~29		30~39		40~49		50~59		60~	
		性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
所有数	(イ) 革靴	1足	88	67	39	0	30	4	18	55	50	34	46	14	25	8
		2足	6	15	57	6	40	59	45	35	36	8	38	9	19	7
		3足	0	0	2	70	28	27	6	6	4	7	13	14	12	
		4足	0	0	2	18	2	8	0	0	9	5	8	8	3	
		5足以上	0	0	0	6	0	2	0	4	8	0	0	2	0	
所有数	(ロ) 雨靴・長靴	1足	82	75	68	60	72	38	52	26	42	24	18	15	7	4
		2足	11	25	19	23	15	51	25	56	50	62	38	36	42	17
		3足	7	0	13	17	11	7	17	8	9	11	17	23	11	
		4足	0	0	0	0	2	2	4	0	5	15	0	0	8	
		5足以上	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	
使用数	(イ) 下駄	1年	18	22	32	38	14	18	58	62	78	92	74	100	82	99
		2年	78	72	54	34	44	32	22	32	18	6	20	0	8	1
		3年以上	4	6	14	28	42	50	20	6	4	2	6	0	10	0
使用数	(ロ) 草履	1年	14	30	36	42	19	44	38	62	58	86	74	92	80	94
		2年	50	60	16	21	18	42	18	34	14	8	16	8	14	2
		3年以上	0	6	2	11	3	14	2	6	6	4	0	6	2	
使用数	(イ) 革靴	1年	74	70	82	92	94	90	64	54	36	18	26	12	6	4
		2年	10	12	18	8	6	6	14	4	18	10	22	14	14	2
		3年	0	0	0	0	0	4	12	14	16	18	6	4	2	
		4年	0	0	0	0	0	0	4	18	4	10	2	14	4	
		5年以上	0	0	0	0	0	0	6	12	14	20	10	30	18	
使用数	(ロ) 雨靴・長靴	1年	85	81	80	79	60	61	50	45	42	36	39	18	10	12
		2年	13	15	18	15	21	19	14	19	2	13	9	17	17	7
		3年	2	4	2	6	15	13	25	10	27	20	15	7	21	25
		4年	0	0	0	0	2	5	5	21	19	9	24	23	18	
		5年以上	0	0	0	0	0	2	6	4	12	18	34	27	38	
使用時間	(イ) 下駄	1時間	58	55	51	48	23	25	18	20	17	0	6	0	0	0
		2時間	12	11	22	17	58	23	17	21	16	17	30	2	0	0
		3時間以上	0	0	0	0	12	26	65	68	82	63	98	100	100	
使用時間	(ロ) 草履	1時間	0	0	2	5	4	18	8	31	13	32	18	46	16	22
		2時間	0	0	0	0	2	11	0	19	5	23	7	21	7	51
		3時間以上	0	0	0	0	0	0	0	14	2	45	3	33	2	27
使用時間	(イ) 革靴	1時間	0	0	0	0	7	10	9	12	40	60	73	81	86	98
		2時間	0	0	0	0	11	18	9	7	41	27	17	17	10	2
		3時間以上	78	57	100	100	82	72	82	81	19	13	10	2	4	0
下駄・草履	①現在のまゝでよい	74	91	28	37	18	31	35	42	52	58	43	30	41	26	
	②足長を大きく	6	1	72	1	82	5	50	5	18	17	35	11	25	17	
	③足幅を大きく	0	8	0	62	0	64	6	41	19	19	12	47	16	34	
	④わからない	0	0	0	0	0	0	9	12	11	6	10	12	18	22	
桐下駄	①現在のまゝでよい	70	50	47	59	38	34	17	11	22	16	31	26	37	42	
	②重いと感じる	30	50	53	41	62	66	83	83	71	72	51	58	53	36	
	③わからない	0	0	0	0	0	0	0	4	7	12	18	16	10	22	

	年 代	0～9		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
革靴	①現在のままでよい	31	44	38	40	33	27	36	31	18	14	12	14	9	4
	②重いと感じる	69	56	62	60	67	73	56	59	68	61	71	72	35	42
	③わからない	0	0	0	0	0	0	8	10	14	23	17	14	56	52

第2図 履物の使用率



第2表 平均使用命数 (単位・年数)

年 令		0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～
(1) 下駄	男	1.68	1.82	2.26	1.62	1.26	1.32	1.28
	女	1.84	1.90	2.32	1.44	1.10	1.00	1.01
	平均	1.76	1.86	2.29	1.53	1.18	1.16	1.15
(2) 草履	男	1.14	0.74	0.64	0.80	1.04	1.18	1.26
	女	1.68	1.17	1.70	1.42	1.20	1.08	1.04
	平均	1.42	0.96	1.17	1.11	1.12	1.13	1.15
(3) 革靴	男	0.94	1.18	1.06	1.74	2.38	2.64	2.52
	女	0.94	1.08	1.02	2.24	1.72	1.16	1.20
	平均	0.94	1.13	1.04	1.99	2.05	1.90	1.86
(4) 雨靴長靴	男	1.17	1.22	1.55	2.03	2.47	2.28	3.34
	女	1.23	1.27	1.68	2.12	2.58	3.39	3.63
	平均	1.20	1.25	1.62	2.08	2.53	2.84	3.49

第3表 平均所有数 (単位・足数)

年 令		0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	
下駄	桐	男女	0.57	1.61	1.63	2.03	2.41	1.61	2.89
		平均	0.61	1.52	1.89	2.26	2.89	2.60	3.49
		松	0.98	1.41	1.55	1.07	0.67	0.31	0.19
	松	男女	1.05	0.71	1.38	0.71	0.91	0.43	0.14
		平均	1.02	1.06	1.47	0.89	0.79	0.37	0.17

年 令			0 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~
下 駄	杉	男	0.22	0.20	0.49	0.31	0.85	0.54	0.21
		女	0.57	0.71	0.54	0.44	0.96	0.30	0.12
		平均	0.40	0.46	0.52	0.38	0.91	0.42	0.17
草 履	男	女	0.72	0.55	0.52	0.89	1.45	2.01	2.19
		平均	1.01	0.83	1.95	2.11	2.57	3.08	3.91
		0.87	0.69	1.24	1.50	2.01	2.55	3.05	
革 靴	男	女	1.00	1.67	2.02	2.23	1.60	1.63	1.47
		平均	0.97	3.24	2.45	1.59	1.38	1.03	1.42
		0.99	2.47	2.24	1.81	1.49	1.33	1.45	
雨靴・長靴	男	女	1.25	1.45	1.43	1.79	1.66	1.87	1.60
		平均	1.25	1.57	1.79	1.97	1.95	1.31	1.33
		1.25	1.52	1.67	1.88	1.81	1.59	1.47	

以上の調査結果から下駄の所有数について考察すると、材質としては桐下駄の愛用者が多いことを示している。年代別に考えてみると男子は60～、40～49、女子についても60～、50～59、40～49と年長者になるにしたがって、足数が増していることは、現代社会の興味ある問題といえるのではなかろうか。松・杉下駄についてみると、桐とは反対に10～20代の若い人が利用している傾向を示している。その理由は長もちすることと安いということにあるようだ。ここで意外な所有数を示しているこ

とに注目すべき問題があると思う。現代社会でも靴だけではすませない日常の生活があることを教えているのではなかろうか。

革靴については20代～40代の男女が多数用いている傾向がめだつ。その理由は通勤・通学という働きざかりの年齢層を示している。50代になると男子はまだ靴の利用者は多いが、女子にあっては多数減少の傾向を示している。すなわち年代的世相を意味していると思われる。雨靴・長靴については年代的な差は認められない。

IV 人の足について

— 山陰の成長期にある年齢を対象とした足の寸法 —

第4表 体格測定値の比較 太字は標準偏差

測度	身長 (cm)		体重 (kg)		座高 (cm)		胸囲 (cm)		測度	身長 (cm)		体重 (kg)		座高 (cm)		胸囲 (cm)	
	男	女	男	女	男	女	男	女		年令	男	女	男	女	男	女	男
1 2 才	144.3	146.4	36.0	39.5	78.2	80.5	69.8	72.5	1 6 才	165.2	154.3	55.2	50.6	89.1	85.0	83.9	81.1
	7.4	6.5	5.8	6.3	4.0	3.8	4.6	5.3		5.6	5.0	6.1	5.9	3.1	2.6	4.5	4.5
1 3 才	151.2	150.3	41.2	42.8	81.6	82.8	73.5	74.9	1 7 才	166.2	154.6	56.9	51.6	89.6	85.2	85.4	81.9
	8.0	5.6	6.8	6.1	4.6	3.3	5.0	4.8		5.3	4.8	6.0	5.9	3.1	2.6	4.5	4.6
1 4 才	157.6	152.3	46.8	46.0	85.2	83.9	77.4	77.4	1 8 才	166.5	154.2	58.0	52.1	90.1	85.2	86.3	83.3
	7.5	5.2	6.9	5.9	4.3	3.1	5.1	4.6		5.7	4.9	6.4	5.9	3.0	2.6	4.5	4.4
1 5 才	163.1	153.9	51.7	48.8	87.8	84.7	81.1	79.7	1 9 才	164.6	151.3	57.0	48.8	90.2	84.8	85.3	80.8
	6.5	5.0	6.5	5.9	3.6	2.8	4.8	4.6		5.6	3.7	6.1	7.5	3.2	1.3	6.0	6.9

足部各計測値の平均の比較

第5表 足 長 (mm)

性別	年令	1 2 才	1 3 才	1 4 才	1 5 才	1 6 才	1 7 才	1 8 才
男	総数 (N)	48	42	44	47	46	48	49
	平均 (\bar{x})	218.7	229.0	234.8	239.7	241.2	243.5	244.8
	分散 (μ^2)	139.8	165.3	167.1	155.7	152.0	135.6	101.5
	$\frac{\mu}{\bar{x}} \times 100$	5.6	5.6	5.5	5.3	5.1	4.8	4.0

性別	年令	12才	13才	14才	15才	16才	17才	18才
女	総数 (N)	46	44	46	48	49	47	48
	平均 (\bar{x})	215.3	220.2	223.6	221.3	223.9	224.1	225.0
	分散 (μ^2)	103.6	145.2	148.3	143.5	142.3	976.5	856.5
	$\frac{\mu}{\bar{x}} \times 100$	4.7	5.5	5.4	5.4	5.3	4.4	4.1

第6表 足幅 (mm)

性別	年令	12才	13才	14才	15才	16才	17才	18才
男	総数 (N)	48	42	44	47	46	48	49
	平均 (\bar{x})	95.1	95.5	99.9	100.8	100.9	101.5	101.2
	分散 (μ^2)	31.5	32.5	36.2	21.9	15.3	11.3	21.0
	$\frac{\mu}{\bar{x}} \times 100$	5.9	6.0	6.0	4.3	3.6	2.9	4.1
女	総数 (N)	46	44	46	48	49	47	48
	平均 (\bar{x})	90.5	91.1	90.8	92.3	92.8	93.8	93.9
	分散 (μ^2)	22.1	23.6	22.1	21.1	15.6	30.2	31.5
	$\frac{\mu}{\bar{x}} \times 100$	5.2	5.3	5.2	5.0	4.7	5.8	6.0

第7表 足長・足幅・身長の成長率 (%) ここでの成長率とは $(x_{i+1}-x_i) \div x_i \times 100$ を計算したものである。

		年令	12~13才	13~14才	14~15才	15~16才	16~17才	17~18才
		性別						
足長 (y_i)	男		4.7	2.5	2.1	0.6	1.0	0.5
	女		2.3	1.5	-1.0	1.2	0.1	0.4
足幅 (z_i)	男		0.4	0.4	0.9	0.1	0.6	-0.3
	女		0.7	-0.3	1.6	0.5	1.1	0.1
身長 (x_i)	男		5.0	4.3	3.1	1.4	0.5	-0.2
	女		2.7	1.3	1.0	0.5	-0.2	0.2

第8表 足長・足幅・身長の成長度の最大・最小値を示す年令

		男 子			女 子		
		身長	足長	足幅	身長	足長	足幅
最 大		12~13才	12~13才	14~15才	12~13才	12~13才	14~15才
		17~18才	17~18才	17~18才	16~17才	14~15才	13~14才
最 小		12~13才	12~13才	14~15才	12~13才	12~13才	14~15才
		17~18才	17~18才	17~18才	16~17才	14~15才	13~14才

以上の結果から考察すると足長は男子に於ては12才~13才までの成長は著しく10mmと増加し、以後平均5mmずつの増加をし、15才から成長が鈍って2mmずつ増加し落着く。女子に於ては13才~14才までに成長が止り安定してくる。

足幅については男女とも14~15才において成長がはげしくつづいて16才~17才の順になるが、12才~18才を通じて男子は6.1mm、女子は3.4mmの成長で成長はきわめて少ない。

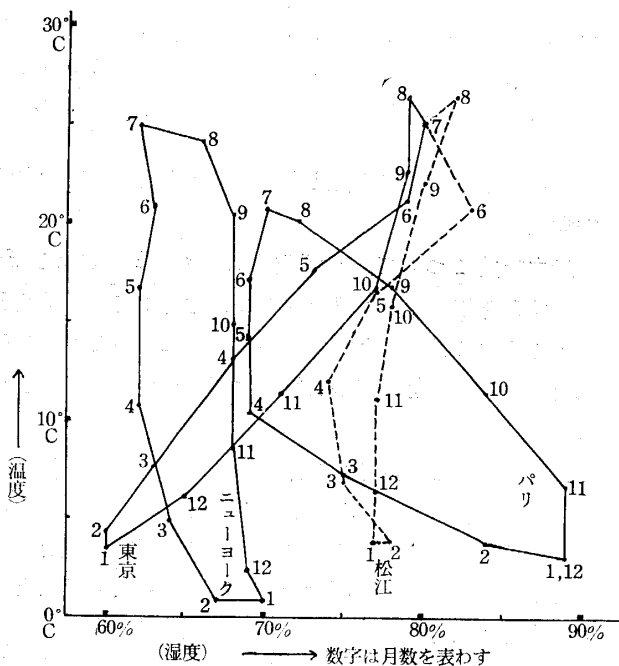
V 気候と履物の関係

第9表 月別平均気温(°C)・湿度(%)

場所		月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	年較差
松 江	湿度		77	78	75	74	77	83	80	82	80	78	77	77	79	9
	温度		3.8	3.9	6.9	12.0	16.6	20.8	25.1	26.4	22.0	15.8	11.1	6.4	14.2	22.6

場所	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	年較差
東京	湿度	60	60	63	68	73	79	80	79	79	77	71	65	71	20
	温度	3.4	4.3	7.6	13.1	17.6	21.1	25.1	26.4	22.8	16.7	11.3	6.1	14.7	23.0
マニラ	湿度	79	74	68	67	71	79	83	86	86	84	83	82	78	19
	温度	25.4	26.1	27.2	28.9	29.4	28.5	27.9	27.4	27.4	27.2	26.4	25.4	27.3	4.0
メルボルン	湿度	56	61	63	69	71	73	70	67	64	63	61	61	65	17
	温度	19.9	19.7	18.4	15.1	12.5	10.2	5.5	6.7	9.3	12.1	15.2	18.4	12.7	14.4
ニューヨーク	湿度	70	67	64	62	62	63	62	66	68	68	68	69	66	8
	温度	0.9	0.9	4.9	10.7	16.7	21.9	24.9	24.1	20.4	14.8	8.6	2.4	12.6	24.0
パリ	湿度	89	84	75	69	69	69	70	72	78	84	89	89	78	20
	温度	3.1	3.8	7.2	10.3	14.0	17.1	20.7	20.1	16.9	11.4	6.7	3.1	11.4	17.6
ニューデリー	湿度	62	47	39	25	25	39	67	73	65	49	44	55	49	48
	温度	14.3	17.3	22.9	29.1	33.5	34.5	31.2	29.9	29.3	25.9	20.2	15.7	25.3	20.2

第3図 気 候 図



以上より気温の年変化は、一般に最暖月は8月、最寒月は1月である。気温の分布は高緯度が低緯度より低温であるが、冬と夏とで趣きが違う。冬は南北の気温の差は大きい、夏は気温の差が少ない。日本海岸と太平洋岸について同じ緯度で比較すると、日本海岸は太平洋岸より高温である。東北地方以北ではこの関係が顕著である。日本の気温を同緯度の外国のそれとくらべると、南半部は冬非常に寒く、夏やや高温である。北半部は冬も夏もやや低温である。日本の気温はシベリア大陸の影響を受けて、島国であるにもかかわらずかなりきびしい。湿度の地理的分布は、冬季は日本海岸にもっとも高く

80%以上を示し、等湿度線は海岸線とほぼ平行して走り、太平洋岸に向かって減少し65%位まで低下する。夏季は大体多湿で、太平洋岸は日本海岸より高く90%以上にも達する。

VI 総 括

われわれの生活様式は複雑で和洋折衷の家に住み、和洋混合の生活をしているが履物は足の保護だけでなく、今は服飾の一部となっている。また歩行や労働能率の向上のために役立っている。ともかく履物はわれわれの生活に密着したものであるから、親しみ深く見る必要がある。履物を通し今の世相として世人の関心を集め、日本履物の長所を認識し日本古来から伝統的に用いられてきた下駄・草履は、簡単に排斥されるべきものではないと思う。

終りに臨み、有益な御示唆を賜りました京都女子大学江馬務先生並びに本学の藤原モトヨ先生に感謝申し上げます。また御便宜をおはからい下さいました調査各学校並びに生徒諸氏に感謝申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 東京天文台：理科年表、丸善 (1968)
- 2) 文部省：学校保健統計調査報告書 (1966)
- 3) 喜田川守貞：近世風俗志、聖光社 (1949)

(昭和44年1月4日受理)